

第2期広島市立大学塾活動報告【11月28日】

国際学部国際学科1年

中島 弘深

透き通るような白色、優雅さを放つ金色、華やかなターコイズブルー。色鮮やかで、柔らかくて、複雑で、でも繊細で、見る者をぱっと笑顔にさせる。第一に、イトバナシのお洋服は伊達さんそのものだと感じました。

今回は株式会社イトバナシ代表取締役の伊達文香さんによる、「日本も、専門分野も飛び出して見えてきたもの」というテーマの講演を講堂小ホールにて拝聴しました。現在自分が本当にやりたいことをはっきりと決めることができている私にとって非常に興味深いテーマでした。

当時広島大学心理学科に所属していた伊達さんは初めて渡ったインドに強く心惹かれたそうです。そして大学院生時代、一緒に働くことでインドの女性問題を解決することはできないかと考え、ファッションも好きだったことからインドの刺繍に着目し、起業を果たしました。私はその行動力と、決断力に非常に感銘を受けました。多くの選択肢がある中で、何も自分の専攻分野にとらわれる必要はなくて、自分がやりたいことに挑戦すればいいのだと奮い立たされたような気がします。

また、伊達さんの「自分への深い問いが自分を動かす」という言葉がとても印象に残っています。小、中、高と、先生や両親に決められたことしかしていないと（与えられた選択肢から選ぶことしかしていないと）、いざ社会に出て突然選択肢が提示されない状態になった時、自分がしたいことが何か分からないだろう。だから、色々な場所に行ったり、美しいものに触れたり、おいしいものを食べたり、魅力的な人と語り合ったり、そういう経験は重要なのだと感じましたし、もっと早くにそれを知っていればと少し後悔もしてしまいました。また、大学生の時学んだ心理学が今、営業の役に立っているなど、全く関係のないことでもつながる時が来るともおっしゃっていましたが、それはいまだ半信半疑です。それが分かったとき、19歳の私を思い出して嬉しくなるだろうと、今から楽しみです。

講演後は、塾生室にお招きして懇談を行いました。講演会では聞くことができなかったことや、プライベートなお話もできて、時間が足りなくなるほど色濃い時間を過ごしました。私も自分の狭い視野や価値観を捨て、広く、深い世界に飛び出してみたいと強く感じました。その為に色々な経験を積み、自分が本気でやりたいことを見つけ出すことに力を入れたいと思います。

